

2026年度 早稲田大学 スポーツ科学部 一般選抜（総合問題）出題の意図

I：スポーツ科学研究は、競技力向上の手がかりを得るために、トップアスリートの卓越した身体運動の秘密を解明すべく、様々なアプローチによって発展してきた。とりわけスポーツ現場では、運動学や運動力学の視点から運動を分析する方法が広く用いられている。そこで、本総合問題では、多くのスポーツにおいて基本的かつ重要な運動の一つであるヒトの「走運動」に着目し、トップアスリートの全力疾走中に得られた運動学・運動力学的データを題材とした。

受験者は、複数のグラフから得られる情報を統合し、各要素間の複合的な関係性を考察する理論的思考力が総合的に問われる。また、高等学校保健体育の教科書に掲載されていない用語も含まれているため、図中の凡例や定義を正しく理解し、情報を適切に読み取る読解力と理解力も問われる。本総合問題は、スポーツ場面における運動を科学的に「知る」力を問うことを目的としている。

II：スポーツの価値を最大限に享受するためには、競技者等の安全と安心の確保が不可欠であり、それを実現するためには適切なリスク管理が求められる。人々がスポーツを続ける機会を失わないためにも、既知のリスクを正確に把握し、それに対する予防策を講じることは、どのような立場であれ、スポーツに関わるすべての人材にとって欠かせない視点である。また、競技ごとのリスクの程度を「死亡事故件数」や「10万人あたりの死亡事故件数」から読み解く設問では、スポーツに内在するリスクについて、競技人口や競技特性を踏まえて考察する力が求められる。

III：スポーツで勝ち負けが競われたり、入学試験の成績で合格・不合格が決められたりするように、私たちの社会では、多くの場面で競い合いがある。こうした競い合いは、善いものなのか、悪いものなのか。この小論文では、競い合いの善悪について考えてもらった。

議論の仕方は自由で構わない。たとえば、競い合うことのメリットを挙げて、善の立場で論じてもよいし、逆にデメリットを挙げて、悪の立場で論じてもよい。また、競い合いの内容や種別を分類して比較検討したり、なぜ競い合いが生じるのかという理由や要因まで含めて論じてもよい。個人間で行われる競い合いだけでなく、企業同士がビジネスで争うような組織間で行われる競い合いや、ひいては戦争のように国家間で行われる競い合いまで視野を広げて論じることもできる。あるいは、競い合いの善悪をどのような視点で評価すればよいか、善悪を考えること自体にどんな意味があるのかといった論点を取り上げてよい。自身のこれまでの経験やあるべき人間像・社会像も交えて、競い合うことの善悪について自由に議論することを期待したい。

以上の独自の探究を展開する思考力・判断力・表現力を問うた。

※お問い合わせいただいた内容は本学において確認いたしますが、個別の回答は行っておりませんので、ご了承ください。解答や得点に影響があると判断した場合は、入学センターWeb サイトに掲載いたします。

お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

以上